

海外農業研修



植付祭

資料3



# 次世代の農業担い手育成の取組



直売実習

令和6年7月3日  
福島県農業総合センター



**農業短期大学校**  
(アグリカレッジ福島)

東日本農業大学校  
プロジェクト発表会

# 所在地



**アグリカレッジ福島**



# 教育目標

実践的な農業の技術力と経営力を備えた  
**地域のリーダーとなる農業者**  
を養成する。

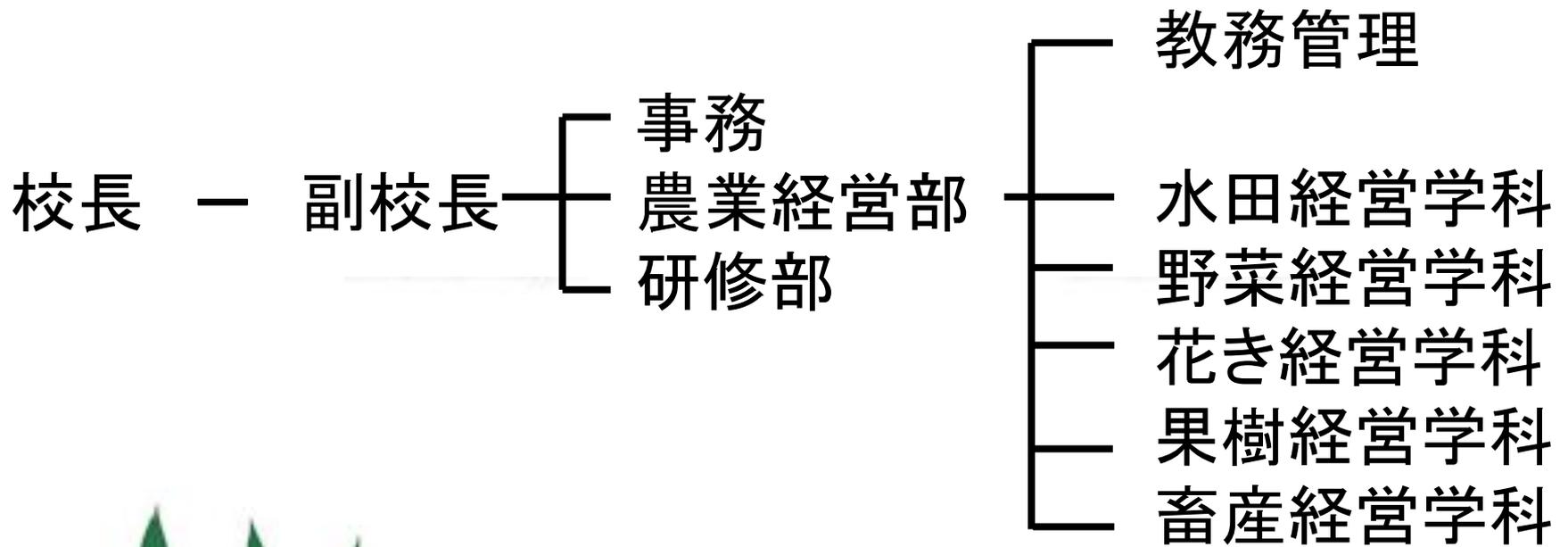


# 教育の方向

## 県内唯一の農業者教育施設として開校

- 1 農業経営の実践に必要な知識及び技術に関する教育を行う
- 2 地域をリードする農業経営者に必要となる経営管理に関する教育を行う
- 3 国際的な視野に立ち農業情勢の変化に対応できる農業経営に関する教育を行う

# 組織



# 学生内訳

【令和6年度】

①出身高等学校過程別

	人数
農業課程	50名
普通課程	33名
その他	14名
計	97名

②農家・非農家

	人数
専業農家	19名
兼業農家	16名
非農家	62名
計	97名

③出身地域別

区分		人数	区分		人数
県内	県北	25名	県内	南会津	1名
	県中	28名		相双	6名
	県南	7名		いわき	7名
	会津	13名	県外		10名

学生数  
( )内は女子

	計
1年	42(12)名
2年	55(11)名
計	97(23)名

# 教育の特色

## 経営シミュレーションによる 総合的な実践力の習得

現場の課題から卒業論文テーマを設定し、自ら生産から販売まで一連のプロジェクトとして取り組み、経営シミュレーションの手法も取り入れながら総合的な農業経営を実践する力を習得します。

# 学部と経営学科

## 農業経営部

- 水田経営学科
- 野菜経営学科
- 果樹経営学科
- 花き経営学科
- 畜産経営学科



## 水田経営学科

水稲・麦・大豆・ソバ等の基本的な栽培管理技術や省力・低コスト技術について学習します。

## 野菜経営学科

施設・露地栽培で実際に安心・安全な作物を栽培し、その技術について学習します。（30数品目を栽培）

## 果樹経営学科

福島県の主力果樹であるモモ・ナシ・リンゴなど全5種果樹の省力化安定生産技術について学習します。

## 花き経営学科

キクなどの開花調節や省力化、切り花の高品質保持等の生産・管理技術、シクラメン等鉢物生産について学習します。

# 畜産経営学科

乳用牛・肉用牛の基本的な飼養管理に関する知識と技術について学習します。

## 全学科に責任分担管理体制を導入

学生ごとに担当する農場区画、ハウス、家畜等を割り当てて生産管理を行う実践的就農シミュレーションを導入

# 学習内容

## 教養 科目

**11科目**

**講義225時間**

## 専門 科目

**共通19科目：講義525時間、実習90時間**  
**自由選択4科目：最大105時間**

**各科14～17科目：講義255時間**  
**実験30時間**  
**実習1440時間**

# GAP・スマート農業の実践

- 第三者認証GAP：JGAP（H30.5～）認証取得  
FGAP（R3.3～）認証取得
  - 認証品目：穀類 米(玄米)、そば、小麦  
青果物 トマト、きゅうり、カキ、ブドウ
  - GAP指導員等資格試験の受験
- 
- スマート農業の実践に向けた新カリキュラム（R4年度の入校生からカリキュラム化）
  - スマート農業に関する知識と最新機器に関する技能習得
  - ほ場管理システム、ドローン（散布、空撮、リモートセンシング）、オートトラクタ、リモコン除草機等の整備

# 免許・資格

- 卒業時に「専門士（農業）」の称号
- 県職員採用時に「短大卒」の資格
- 4年制大学の編入学試験が受験可
- 資格取得

大型特殊免許、けん引免許、簿記3級、  
毒物劇物取扱者、日本農業技術検定、  
土壌医検定、家畜人工授精師（畜産  
経営学科のみ）等

# 卒業生の進路（令和5年度）

就農

自家就農・法人就農・研修  
(5) (16)

47%

就職

農業協同組合・農業団体  
関連産業・公務員・他産業

53%

# 研修部が行う主な農業研修

一般農業者及び就農を目指す方を対象とした  
次の研修を実施しています

就農研修  
(初級)

就農研修  
(中級)

長期  
就農研修

農産加工  
研修

農業機械  
研修

# 長期就農研修

転職者等の円滑な就農促進を図るため、  
1年を通じた栽培技術等を体系的に習得



令和7年度  
研修者宿泊施設供用開始

農業短期大学校では6名が受講中(R6)  
研修専用パイプハウス10棟整備済



※写真は令和5年度のもの

果樹研究所では7名が受講中(R6)

# 就農研修（初級）（中級）

就農希望者や新規就農者等を対象に、受講レベルに応じて、作業体験や座学により知識を習得



就農研修（初級）春コース



就農研修（中級）

# 農産加工研修

加工初心者を対象とした講義や実習をはじめ、  
商品開発につなげるコース等を実施



農産加工基礎(春コース)

# 農業機械研修

安全運転技術向上等を目的とした研修や、操作・点検、スマート農業等を学ぶ研修を実施



安全運転技術総合コース(けん引操作)

構想の旨

県内唯一の農業実践の高等教育機関として「就農後の経営を早期に安定化できる資質を備え、地域のリーダーとなる農業者を多く輩出する」ことを目的に「教育機能」、「研修機能」及び「大学校としての魅力の最大化」をコンセプトとした体制や整備の革新(H27~28)を補強し、進展する農業の国際化や高齢化の中で本県農業を支え、国内のみならず国際競争力を見据えた幅広い知識と鋭い経営感覚、高い技術を習得した人材(農業者)を育成・確保するため、国の成長戦略にも位置付けられたスマート農業のカリキュラム化、並びに先の革新では達成し得なかった教育及び研修の運営方策の深化と必要な施設等の整備を具現化

## 【人材育成に関する強化方針】

「収益性の高い農業の実現に向けて行動できる素養を備えた人材」  
 「時代の変化に即応できる経営管理能力や広い視野を備えた人材」  
 「地域の課題解決に積極的に対応し、本県の農業振興をけん引できる人材」

強化対策

### 研修機能の革新(教育・研修施設の再編、スマート農業施設整備)

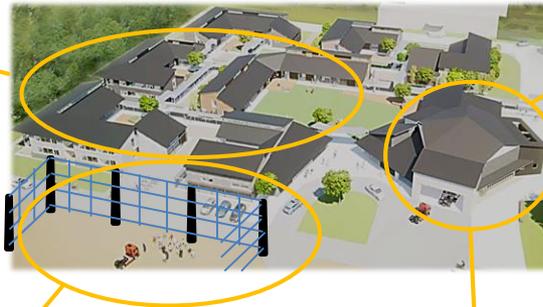
#### ◎ 遠方から受入が可能な宿泊施設

- 新しい学生寮による受験希望の増加
- 長期研修生の宿泊施設を整備することで県内外から広く研修への参加が可能に
- 開放的なリビングスペースを設け、研修生が集まって交流することでより効果的な研修を実現

一般宿泊棟  
 延べ床面積 約570㎡  
 18部屋18名収容

学生寮  
 延べ床面積 約2,600㎡  
 男子：76名収容(個室)  
 女子：34名収容(個室)

新施設の概要(R7.4から供用開始)



#### ◎ 学びを促し、情報交換が進むコミュニティスペース

- 学生、講師、研修生が自然と集まる開放的な自習スペースを整備。学生寮からアクセスでき、授業外でも勉強する学生が生まれる
- 学生、研修生、講師相互の情報交換から、豊かな本県農業や地域課題に取り組む農業者の理解が深まる

クリエイティブホール棟  
 延べ床面積 約840㎡<sup>2</sup>

#### ◎ 実践研修が行えるスマート農業トレーニングフィールド

- ドローンやオートトラクターなどスマート農業機械の操作・運転技術等を習得するためテストフィールド(実証ほ場)を整備し、スマート農業関連機器・機械の実践演習を実現

トレーニングフィールド  
 面積 約5,000㎡<sup>2</sup>



#### ◎ 実際の作業と一体感が伝わるクリエイティブホール

- スマート農業関連機械・機器を収納する格納庫と200人収容の大規模ホールを連結し、目の前で実際の機械・機器を体験できる座学を実現



強化対策

教育機能の革新(スマート農業カリキュラムの導入⇒済、将来に役立つスキル習得支援の充実⇒継続)

学校運営機能の革新(就農サポート専門員の配置⇒済、情報発信の強化⇒継続)

強化・改良要